

資料提供



提供年月日：平成 31 年（2019 年）3 月 27 日
 所属名：（一社）滋賀グリーン購入ネットワーク
 担当者名：辻・竹ヶ原
 内線：2579
 電話：077-510-3585
 E-mail：sgpn@oregano.ocn.ne.jp

第3回「買うエコ大賞」受賞者決定！ 「大賞」は、「魚のゆりかご水田米」せせらぎの郷

一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク（滋賀GPN）が、「滋賀県産エコ商品の普及拡大」を目的に実施する表彰制度「買うエコ大賞」。第3回大会の商品・サービス部門各賞受賞者が決定いたしました。第1次審査で選ばれた以下6商品に対して「一般投票」を行った結果、有効投票数1,711票のうち最多得票の529票を獲得した「魚のゆりかご水田米」（せせらぎの郷）が『大賞』に選ばれました。その他の結果は以下の通りです。

商品・サービス部門、活動部門とも表彰式は6月4日（火）、「滋賀GPN設立20周年記念フォーラム」と同日に開催いたします。ぜひご参加ください。

第3回「買うエコ大賞」【商品・サービス部門】受賞団体

※「優秀賞」は団体名の50音順

賞の種類	商品名	受賞団体
大賞	魚のゆりかご水田米	せせらぎの郷（野洲市）
滋賀県知事賞	滋賀チェア	(株)安藤製材所（彦根市）
滋賀グリーン購入ネットワーク会長賞	太陽光照明システム「スカイライトチューブ」	(株)井之商（大津市）
優秀賞	滋賀県産間伐材を使った「木製名刺ケース」	滋賀県産間伐材有効利用促進グループ（彦根市）
	自然と共に生きる体験型宿泊施設「志我の里」	志我の里（高島市）
	MURASAKI no ORGANIC（ムラサキノオーガニック）	(株)みんなの奥永源寺（東近江市）

大賞



魚のゆりかご水田米

滋賀県知事賞



滋賀チェア

滋賀グリーン購入ネットワーク 会長賞



太陽光照明システム
 「スカイライトチューブ」

優秀賞



自然とともに生きる体験型宿泊施設
 「志我の里」

優秀賞



滋賀県産間伐材を使った
 「木製名刺ケース」

優秀賞



MURASAKI no ORGANIC

【商品・サービス部門】贈賞理由

賞の種類	商品名	受賞団体
大賞	魚のゆりかご水田米	せせらぎの郷 (野洲市) 代表者：代表 堀 彰男
	一般投票の内、30%以上を獲得。特にWEB投票や県内小売店舗におけるパネル展での消費者からの支持が高かった。かつて琵琶湖周辺の田んぼは、排水路を通じて琵琶湖とつながり、フナなど湖魚の産卵場所であった。「魚のゆりかご水田」では、豊かな田園環境と多様な生きものを取り戻すため、地域資源を活用して魚道をつくり、生きものに配慮した減農薬・減肥料及び無農薬・無化学肥料のお米を作っている。6次産業化の取り組みとして、このお米から作った純米吟醸酒「月夜のゆりかご」も好評であることなど、環境配慮性、地域性など多くの点が評価された。	
滋賀県知事賞	滋賀チェア	株式会社 安藤製材所 (彦根市) 代表者：代表取締役社長 安藤 哲也
	以前は台所の燃料として活用されていた里山のコナラも、今ではガス等に需要が置き換わり、放置され育ち過ぎている。大きく育ったコナラはナラ枯れの原因となる虫に喰われやすくなるため、伐採して運び出す必要がある。この商品は、ナラ枯れの虫食いや変色を個性として活かし、飽きのこないスタンダードなデザインで作成された。行政・森林組合・製材所・家具メーカー・大学・デザイン事務所等、様々な主体の協働で開発されており、「買うこと」「使うこと」が里山の再生につながる。滋賀県産材を用いて滋賀県で製造された、その地域性、デザイン性が高く評価された。	
滋賀グリーン購入ネットワーク会長賞	太陽光照明システム「スカイライトチューブ」	株式会社 井之商 (大津市) 代表者：代表取締役 井上 昇
	電気を一切使わない、ゼロエネルギーの太陽光照明システム。屋根に太陽光を採り入れる「採光ドーム」を設置し、99.7%という強力な反射率を持つ「特殊鏡面加工チューブ」で部屋の隅々まで光を届けることができる。熱や結露の心配もなく、紫外線を大幅にカットする効果がある。一年を通して朝から夕方まで効率よく室内へ自然光を届けることが可能。パネル展で実際に商品サンプルを見た消費者からも、その採光能力について驚きの声が寄せられていた。環境性、独創性が高く評価された。	
優秀賞	滋賀県産間伐材を使った「木製名刺ケース」	滋賀県産間伐材有効利用促進グループ (彦根市) 代表者：田中 正司
	ヒノキをはじめとした、滋賀県産の間伐材や端材を活用した名刺ケース。森林の保全には間伐作業が欠かせず、間伐材を有効に利用することはびわ湖を守ることにつながる。この「びわ湖と森をつなぐエコグッズ」は、持つ人が森林保全の大切さを他者に示すことにもなる。材料・加工・図案までまるごと滋賀県産で、なぜか逆さにしても名刺は抜け落ちないという独自性やデザイン性が評価された。	
優秀賞	自然と共に生きる体験型宿泊施設「志我の里」	志我の里 (高島市) 代表者：里頭 池田 卓矢
	自然豊かな高島の魅力が存分に体験できる、セルフビルドによる体験型宿泊施設。40年にわたって放置されていた雑木林を自力で開拓・開墾すると共に、間伐材を使ってセルフビルドにより建てられた。太陽熱温水器や薪ボイラーなど地産地消型の自然エネルギーの活用により、「ライフラインが途切れても生きていける里」である。エネルギー地域自立の大切さについて、宿泊者に気づきを与える啓発効果もある。今回ミネートの中で唯一の「サービス」であり、独創性などが評価された。	
優秀賞	MURASAKI no ORGANIC(ムラサキノオーガニック)	株式会社 みんなの奥永源寺 (東近江市) 代表者：代表取締役 前川 真司
	琵琶湖の源流「奥永源寺地域」の耕作放棄地を開墾。絶滅危惧種で東近江市の花「紫草(ムラサキ)」を無農薬・有機栽培で栽培し、その紫根を活用したオーガニックコスメシリーズ。滋賀県産のオーガニック菜種油やヒマワリ油、アオバナエキスなど他の原材料にもこだわり、その生産過程だけでなく、加工・流通過程においても環境負荷低減に努めている。2014年から東近江市地域おこし協力隊に就任し、過疎化が進む奥永源寺で住民と共に地域が持つ可能性を追求してきた代表者の企画による商品で、審査委員からは今後への期待の声が大きく、地域性などが評価された。	

【活動部門】 環境活動表彰 贈賞理由

活動テーマ	受賞団体
<p>空き家再生による資源再利用と、商店街活性化による地方創生～大津町家ホテルプロジェクト～</p>	<p>(株)木の家専門店 谷口工務店 (竜王町) 代表者：代表取締役 谷口 弘和</p>
<p>空き家の利活用を促し、商店街を拠点とする街の活性化に貢献しようと、大津市中心部の商店街の空き店舗 7 棟を改修した「商店街 HOTEL 講 大津百町」。2018 年度「グッドデザイン賞」も受賞された。家屋の解体現場で発生する廃棄物は、平均 2～3.5 トン。今回対象となった建物も傷みが激しく、通常なら壊すところを大工の技術で回収。産業廃棄物量を抑え、再利用できる建物へとリノベーションした。全棟の床、階段、浴室に国産材のヒノキ、杉を使用し、国産材使用による CO₂削減と加工時エネルギーを一削減。全棟に庭をつくり緑を増やした。プレオープン時には記念茶会を催し、県知事、大津市長と共に商店街関係者や地元企業を招いて話題を集め、多くのメディア取材を通して大津の魅力を発信できた。オープン後は商店街とのタイアップで、宿泊客の地元商店、地元飲食店利用や地域観光につなげることが期待できる。環境配慮に加えて地域活性化を願う姿勢が評価された。</p>	
<p>低炭素社会づくりに向けたエコ通勤活動の推進</p>	<p>(株)日立建機ティエラ (甲賀市) 代表者：代表取締役社長 中村 和則</p>
<p>通勤車両から発生する通勤時の CO₂排出量を削減しようと、事業所の全従業員（場内協力会社含む）に啓発活動を実施し、高効率車への乗換えや公共交通機関・自転車通勤・徒歩での通勤を呼びかけた。また、駐車場拡張工事に伴い 70 台のバイク専用置場の新設、自転車置場の整備、シャワー室の更新も実施。駅から遠い事業所であるからこそ、エコ通勤は社員の健康増進にもつながると取り組みを展開し、2015 年 6 月には国土交通省「エコ通勤優良事業所認証」も取得。通勤手当のデータから試算したエコ通勤による CO₂排出抑制貢献量は、2014 年度の 56.4 t-CO₂/年 から 2017 年度は 106.3 t-CO₂/年となり確実に拡大してきている。効果をデータで把握し、健康経営にもつながるエコ通勤活動を今後も進めるという前向きな姿勢が評価された。今後も「みんなであつこう！～健康ティエラ～」を合言葉に従業員全員で低炭素社会づくりに貢献していくとのこと。</p>	

<買うエコ大賞とは>

「買うエコ大賞」は、環境に配慮した滋賀県産の商品（原材料が滋賀県産のものも含む）またはサービスを幅広く募集し、審査会で選ばれた商品またはサービスを、ウェブサイト等を活用して紹介し、一般投票で大きな支持を得られた商品・サービスを表彰すること、また、グリーン購入活動をはじめとする環境負荷低減に関する優れた取り組みを行った事業者、民間団体を表彰すること、およびそれらの受賞事例を紹介することにより、地球環境問題等への関心を高め、グリーン購入活動をはじめとする環境負荷低減活動を促進することを目的としています。



<実施スケジュール>

2018年6月～8月10日	募集期間
2018年8月23日	予備審査会
2018年9月5日	第1次審査会(プレゼンテーション大会)・応募者交流会
2018年10月1日～2019年1月31日	一般投票期間
2018年10月8日～10月14日	アル・プラザ草津(草津)にてノミネート商品のパネル展示会
2018年11月4日～11月10日	びわ湖彦根(彦根)にてノミネート商品のパネル展示会
2018年12月8日	「三方よしエコフェア2018」にてノミネート商品展示会 会場:ピアザ淡海(大津)
2019年3月18日	最終審査会
2019年3月27日	審査結果発表
2019年6月4日	表彰式(滋賀 GPN20 周年記念シンポジウムと同日開催)

<表彰式>

■日時: 2019年6月4日(火) 14:00～14:30(時間は予定)

■会場: ピアザ淡海 3階 大会議室(大津市におの浜1-1-20)

※引き続き「滋賀グリーン購入ネットワーク設立20周年記念フォーラム」を開催します。

<審査委員>

(学識経験者)	委員長 滋賀県立大学 教授 前滋賀県知事 (一社)滋賀グリーン購入ネットワーク 会長	徳満 勝久氏 嘉田 由紀子氏 秋山 道雄氏
(報道関係者)	株式会社京都新聞社 滋賀本社 編集部長 びわ湖放送株式会社 代表取締役社長	松田 規久子氏 東 清信氏
(経済団体)	公益財団法人滋賀県産業支援プラザ 常務理事	清水 正博氏
(消費者団体)	滋賀県生活協同組合連合会 会長 滋賀県地域女性団体連合会 常任理事	北川 紀子氏 井上 多佳子氏
(県関係部局)	滋賀県 県民生活部エネルギー政策課課長 滋賀県 琵琶湖環境部温暖化対策課課長 滋賀県 琵琶湖環境部循環社会推進課課長	杲 一哉氏 天野 孝志氏 三橋 進氏

<主催> 一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク

<後援> 滋賀県

<協賛> 株式会社滋賀銀行、株式会社平和堂、滋賀県生活協同組合連合会、
株式会社千成亭、琵琶湖汽船株式会社 他

(別紙)

「買うエコ大賞」審査実施要領

本要領は、「買うエコ大賞」審査委員会規程 第6条に係るものである。

【商品・サービス部門】

1 第1次審査

応募書類ならびにプレゼンテーションにより審査項目に基づき審査する。総合点が高かった6点を一般投票の対象とする。

委員長が必要と認めた場合は、応募者に対する追加のヒアリングを行うことができる。

なお、応募者多数の場合は、予備審査にて第1次審査対象者を選出しておくものとする。

審査項目		配点
①環境配慮性	・「グリーン購入基本原則『2 製品・サービスのライフサイクルの考慮』」8項目の内、2項目以上に合致すること ・上記について申請書類上でわかりやすく説明が記されていること ※環境ラベルの取得など、環境に配慮した製品・サービスであることが第三者機関によって証明されている場合は、プラス5点とする。	35点 5点
②地域性	・滋賀県産の製品であるか、または滋賀県産の原材料が使われていること ・滋賀県に根付いたストーリー性があること	20点
③独創性	・他製品にない独創的なアイデアが盛り込まれていること ・使用目的に沿った機能やアイデアが優れていること	20点
④共感性	・①～③に関する情報が、消費者にわかりやすく示されていること ・消費者の支持を得られること	20点
合 計		100点

2 一般投票

第1次審査を通過した6点について、次の方法で一般投票を実施する。なお、いずれの方法も投票は記名式で、1人1回限りとする。

- ① ウェブサイトにおける投票
- ② 展示会会場等における来場者投票
- ③ ハガキ
- ④ FAX

3 最終審査

2の結果をもとに、最終審査を行い、次の各賞を選出する。

大 賞	一般市民から最も支持された、特に優れた環境配慮型商品・サービス
滋賀県知事賞	滋賀県の環境ブランド力向上に特に寄与すると考えられる、特に優れた環境配慮型商品・サービス
滋賀GPN 会 長 賞	グリーン購入の普及に特に寄与すると考えられる、特に優れた環境配慮型商品・サービス
優 秀 賞	優れた環境配慮型商品・サービス

【活動部門】

応募書類により次の審査項目に基づき審査を行い、審査委員採点の平均値が 80 点以上の者を「環境活動表彰」の対象者とする。

審査項目		配点
①自らの創意工夫	・応募者自らの創意・工夫や、課題解決に向けた努力などが認められること	25 点
②成果・効果	・取り組みによる成果・効果が認められること	25 点
③継続性・発展性	・一時的な取り組みではなく、日常的、継続的に実施されていること ・今後の発展的な取り組みが期待できること	25 点
④汎用性	・他の県民や事業者等の参考となる取り組みであること	25 点
合 計		100 点

別表 グリーン購入基本原則

●1. 「必要性の考慮」

購入する前に必要性を十分に考える

●2. 「製品・サービスのライフサイクルの考慮」

資源採取から廃棄までの製品ライフサイクルにおける多様な環境負荷を考慮して購入する

2-1 環境汚染物質等の削減

環境や人の健康に影響を与えるような物質の使用や排出が削減されていること

2-2 省資源・省エネルギー

資源やエネルギーの消費が少ないこと

2-3 天然資源の持続可能な利用

再生可能な天然資源は持続可能に利用していること

2-4 長期使用性

長期間の使用ができること

2-5 再使用可能性

再使用が可能であること

2-6 リサイクル可能性

リサイクルが可能であること

2-7 再生材料等の利用

再生材料や再使用部品を用いていること

2-8 処理・処分の容易性

廃棄されるときに適正な処理・処分が容易なこと

●3. 「事業者取り組みの考慮」

環境負荷の低減に努める事業者から製品やサービスを優先して購入する

3-1 環境マネジメントシステムの導入

組織的に環境改善に取り組むしくみがあること

3-2 環境への取り組み内容

省資源、省エネルギー、化学物質等の管理・削減、グリーン購入、廃棄物の削減などに取り組んでいること

3-3 環境情報の公開

環境情報を積極的に公開していること

●4. 「環境情報の入手・活用」

製品・サービスや事業者に関する環境情報を積極的に入手・活用して購入する

1996年11月7日制定

2001年6月12日改定

グリーン購入ネットワーク